

ひれ伏してしまうような紅葉に会いたい？

## 栗駒山

実施日 2013年10月17日(木)~18日(金)  
 天候 晴れ  
 リーダー 涌井 良明  
 参加者 友近洋子、佐藤金治、涌井良明、山崎富美恵、安田三恵子、小村井好江、石附智江、渋谷賢寿、中村友子、宇野輝代、関塚七海 計11名  
 費用 JR(東京起算通常料金)25,540円  
 レンタカー4,950円 宿泊13,000円  
 合計43,490円  
 タイム 10/17 一ノ関駅(9:34~10:00レンタカー)幽玄洞(10:30~11:20)陸前高田経由気仙沼(13:00~14:00昼食)毛越寺(15:20~16:00)矢びつ温泉(16:40)泊  
 10/18 矢びつ温泉(8:00レンタカー)須川温泉(8:45~8:55)散策路分岐(9:30~9:40)昭和湖(10:05~10:20)稜線・天狗平(11:07~11:10)栗駒山(11:40~12:10昼食)天狗平(12:30~12:35)秣岳最低鞍部(13:38~13:45)秣岳(14:25~14:35)下山路分岐(14:55)県道登山口(14:35)須川温泉(16:10~16:30)一ノ関駅(17:40~18:40JR)

運よく台風接近に1日ずれて実施出来たが、例年より早めの紅葉と台風の影響もあってか、ひれ伏す程の紅葉には会えなかった、それでも快晴の秋山を満喫できた。

10/17 一ノ関駅前レンタカー2台に分乗してさあ今日は観光だァ！でも中尊寺じゃ？、で行先に悩んだがあまりメジャーじゃないけど一先ず幽玄洞&猊鼻溪へ向かう。貸切状態で鍾乳洞を見物後、復興支援？で昼食へ陸前高田は？との意見にウン、ウン。でクルマは東へ向けて走ることに・・・復興関連のトラックが目立つなか高台移転した仮庁舎を過ぎて高田市内に入るが区画された平地が広がり所々盛り土が見られるだけで、映像で見ていた風景があった。当然商店などもなく食事はムリ、そこで奇跡の一本松を横目に気仙沼へ向かう。駅前案内所で聞き出した港近くの復興屋台村へ。勧められた海鮮丼にありつく、新鮮なでっかい

刺身に埋まった海鮮丼の味は推して知るべしある。11人で押し掛けて少しは復興支援に役だった、かな??

更に欲張り観光は平泉に向かい、奥州藤原氏の威光を偲ぶ毛越寺も見物して、宿泊地の矢びつ温泉へ。かつて骨寺村で中尊寺の荘園だった矢びつ温泉は広い敷地の一軒宿だ。浮かぶ茜雲が明日の好天を期待させてくれていた。宿舎は温泉、食事共に山ヤにはちょっと贅沢かも知れないが快適に過ごすことができ良い前泊(前日)ツアーになった。

10/18 山ヤ(高齢者)の習慣?早い目覚めで朝風呂でサッパリして、しっかり個別食で朝食を済ませ、栗駒山登山口の須川温泉に向かう。高度も上がって来ると紅葉もチラホラ、でも色付かないで枯れ落ちている物も多く今年の紅葉はあまり良くないのかも知れないなあ。

須川温泉の広い駐車場に着く、ウゥ！さぶー！予想以上に気温が低い。遥か西には既に雪を纏った鳥海山も浮かんでいる。

一時頭上に漂っていた灰色雲も薄くなり青空が広がってくる中、温泉の脇から登山道に入る。

色付いた葉が朝陽に耀る道(遊歩道)を行く。

やがて気分の良い名残ガ原に、草紅葉がイイネ。

湿原を過ぎて少し登って散策路との分岐で小休止、増々広がった青空と周囲の色とのコントラストにあきだねえエ。一登りで小沢を渡り僅かで硫黄の噴気の上がる濁沢浴いになる。眺望も開け気分は爽やかだが囁く風は少し寒さも感じる。平坦になって昭和湖に出る、コバルトグリーンの水面を持ちそれ程大きくない池だ。近くに設置されたトイレ小屋に皆で寄って、今日の登りのメインルートへ。この辺りからは樹木の葉も落ち秋も

終焉を迎えている、残ったナナカマドの赤い実が青空に映える。

足元はスタート直後からぬかるんだ箇所が多く足の置場に気を使いながらの歩行が続



いて行く。頭上の山肌が白っぽく見えているが霜・雪・氷？

やがて登山道に僅かだが雪を見る、数日前の台風くずれで一時的に冬型気象になったために降雪があったのか？

正面のスカイラインが近づいて切り切って天狗平の標柱のある主稜線上に着く。反対側の宮城県側からの湯浜・表掛けコースもここに登り着く。標柱に山頂



800mとあった。山頂へ向け稜線を登るが、途中天狗岩と呼ばれる大岩に降雪と強風による見事なエビ

の尻尾が見られた。また下から見えた白い山肌は笹や灌木の枝に見られるエビの尻尾、或は樹氷ベイビーだったね。その美しさにと珍しさにワーワー・キャーキャーと賑やかな歩きになったのは…いつものこと…？だね\(^o^)/

快晴の栗駒山頂は大勢の登山者でにぎわっている、平日なんだけどこの時期はねえ。陽もあってそれ程寒くないので360度の展望を楽しみつつ我々も昼食になった。

後半の行程はまだ長い、集合写真を撮って先程の天狗平まで戻る。進む



岳への道が笹原に伸びている。その道を進み緩く登ると右側に昭和湖が望めやや前方には龍泉ヶ原の湿原が広がり、更にこれから辿り着く稜岳への稜線がたおやかに続いている。しかしあんな所まで2時間ほどで行けるのかア？？



心配しても仕方ない、爽快な気分のままガンバンベー！

気分の良い稜線歩きは1573mピークまで。ここから一旦下りとなるが、この下りは足元が何とも良くない、泥濘の連続

で下ばかり向いてると小枝が顔にバシッ！となる、山やは顔が命なのにイ(@@)枝や笹を掴み左に右にと泥濘を何とか避けながらアスレチック気分？を楽しんで下って行く。下り切った最低鞍部から稜岳へは更に緩やかにうねる尾根を進むことになる。139



7mの盛上りを過ぎると突然木道の伸びる湿原が広がる、訪れる人も少ない広々とした山上楽園、

本当に気分が良い所だ。

前方に見えている岩の小ピークを越すと稜岳も近くなる。東北らしい丸みを持った登りが終わると稜岳に着く。振り返ると栗駒山が遥かな山のように、ゴールの須川温泉も良く見えている。

集合写真に収まってそのまま尾根を絡みながら下山口へ向かって下りになる。



一旦下り切った鞍部が下山口で右に山腹を急降下する道に入る、短い岩場、急な泥道など濡れて注意を要する箇所もあるが徐々に樹林帯の中を下るようになって傾斜も緩くなってくるとやがて県道の登山口に降り立つ。あと舗装路2.7kmで須川温泉だ。レンタカーの契約時間など一ノ関帰着時間も気になる中、県道歩きはメンバーに早歩きを強いたが16時10分須川温泉に戻り着き、歩行距離14.3km行動時間7時間を終えた。

あとはビューン！？と一ノ関駅へまっしぐら、静かめ？な車内反省会でも、気付くとアラ！もう下車駅？なのでした

皆さん大変お疲れ様でした(^\_-)-☆。

期待した紅葉は… でしたが、好天に恵まれ東北らしい優しさも感じられる山並や、この時期ならではの様々な山の表情にも出会え、それなりに楽しんでいただけたのではないのでしょうか？

また、機会があれば皆さんと思い出を重ねる山歩きをご一緒したいと思います。ぜひまた参加してくださいね。

(記&写真・涌井 良明)